

7. 平成 29 (2017) 年度及び平成 30 (2018) 年度コウヨウザン植栽地における現地調査及び下刈り等の実証調査、ノウサギ被害の防除技術の検証

(1) 目的

平成 29 (2017) 年度の実証植栽地 3 箇所 (富山県立山町、広島県北広島町、宮崎県宮崎市) 及び平成 30 (2018) 年度の実証植栽地 2 箇所 (静岡県小山町、和歌山県上富田町) の合計 5 箇所のコウヨウザン (表 7-1、図 7-1) について、植栽後の生育状況等について調査を行い、得られた結果を評価し、これからの早生樹導入に向けたガイドライン作成に必要な情報を整理する。

表 7-1 平成 29 (2017) 年度及び平成 30 (2018) 年度コウヨウザン実証植栽地一覧

No.	植栽年	場所	実施事業体	苗齢 (年生)	植栽密度 (本/ha)	植栽面積 (ha)	植栽本数 (本)	備考
1	H29 (2017)	富山県中新川郡 立山町	立山山麓森林組合	1	1,600	0.23	360	720 広島県より 苗木を入手
				2		0.23	360	
2	"	広島県山県郡 北広島町	安芸北森林組合	1	1,500	0.22	323	645 "
				2		0.22	323	
3	"	宮崎県宮崎市 高岡町	宮崎地区国有林 事業協同組合	1	1,600	0.25 0.26	400 387	787 "
4	H30 (2018)	静岡県小山町	静東森林経営 協同組合	1	1,600	0.25	400	800 "
				2		0.25	400	
5	"	和歌山県西牟婁郡 上富田町	株式会社中川	1	1,600	0.25	400	800 "
				2		0.25	400	

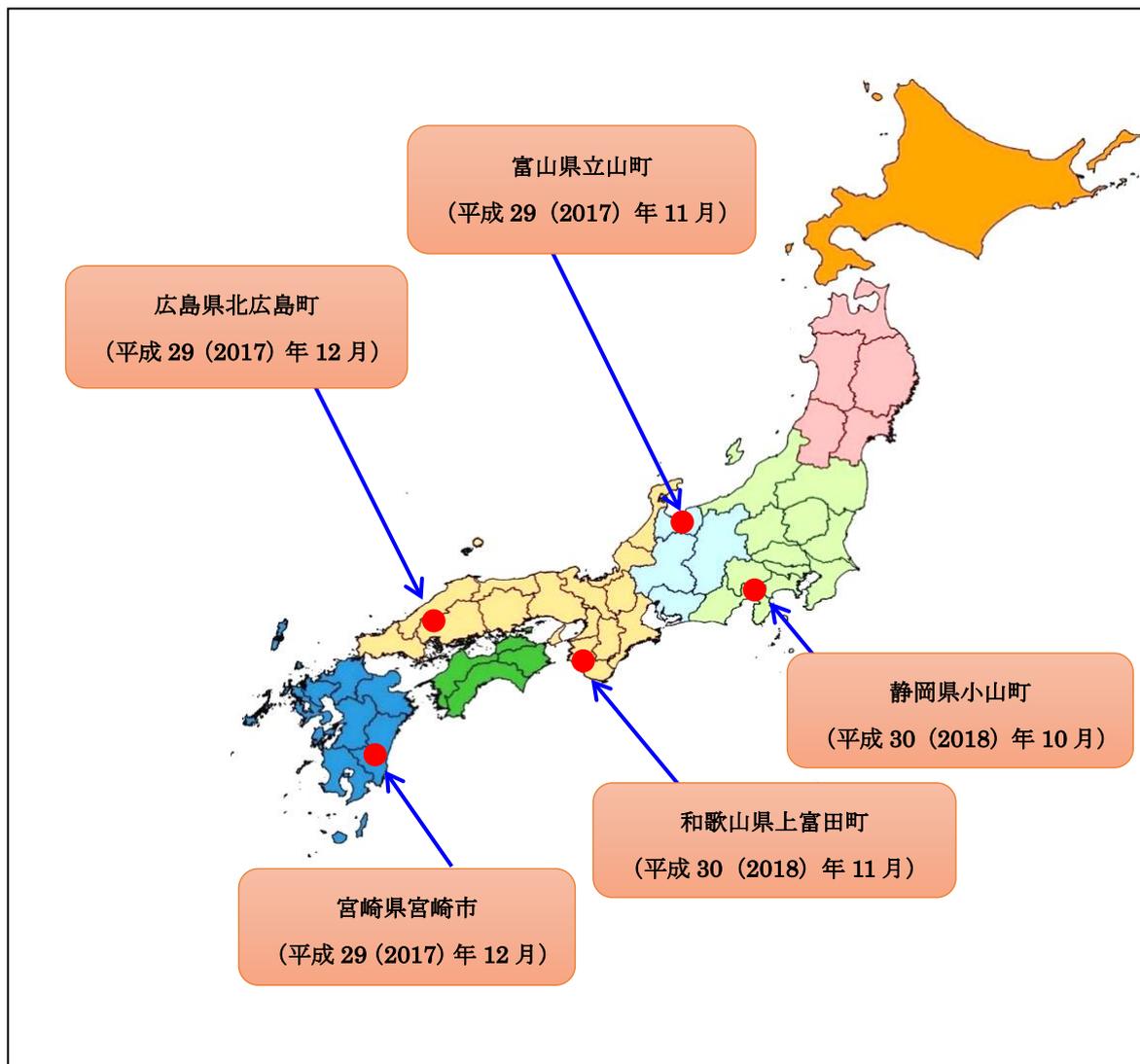


図 7-1 平成 29 (2017) 年度及び平成 30 (2018) 年度コウヨウザン実証植栽地位置
(カッコ内は植栽年月)

(2) 調査項目

① 苗齢別の生存率及び成長状況の違い

苗齢別の生存率及び成長状況の違いを調査するため、各植栽地において1年生苗と2年生苗の調査プロットを設け、植栽直後、1年後及び2年後に現地調査を行い、根元径及び樹高を計測し、植栽木の状況を記録した。

なお、宮崎県宮崎市では2年生苗が入手できなかったため、1年生苗のみの植栽とし、斜面別の生存率及び成長状況の違いを調査した。

② ノウサギ防除処理区別のノウサギ被害率及び成長状況等の違い

ノウサギ防除処理区別のノウサギ被害率及び成長状況等を調査するため、各植栽地において無処理区（上記①の調査プロットと同様）、忌避剤区、単木防護区を設け、ノウサギ防除直後（7～8月）及び成長休止期前（10月）に現地調査を行い、根元径及び樹高を計測し、苗木の被害状況を記録した。

ノウサギの防除手法は前述3章に記載の令和元（2019）年度の実証植栽地と同様、忌避剤及び単木防護ネットとし、忌避剤としてコニファー水和剤、単木防護ネットとしてジュウガードSを使用した。

なお、ノウサギの被害が見られていない富山県立山町ではノウサギ防除は行っていない。

③ 植栽から下刈りまでの作業人工

植栽時及び下刈り時に無処理区の苗齢ごと作業時間を記録し、苗齢による作業人工数の違いを調査した。なお、下刈りは苗齢の違いによるコストの違いを確実に把握するため、全刈りとした。

④ 地拵えから下刈りまでのコスト

地拵えから下刈りまで、実際にかかったコストを苗齢ごとにまとめ、苗齢によるコストの違いを調査した。なお、植栽及び下刈りコストは、③の結果を基に苗齢別に按分して算出した。